

もも・ネクタリン特報

【定期散布】

・隣接する園地や収穫中の作物に飛散しないよう十分注意する。

もも

第11回 定期防除

散布時期：前回散布から15日以内（8月12日～8月18日頃）

＊除袋間近な場合は、除袋後に散布を実施する。

散布薬剤：	水	100ℓ	
	展着剤	20ml	
	オーシャインフロアブル	50ml	（前日、3回）
	ディアナWDG	10g	（前日、2回）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ
10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

- ① ハダニ類の発生が心配される場合は、コロマイト乳剤1,000倍（7日前、1回）または、ダニゲッターフロアブル2,000倍（前日、1回）を加用散布する。（使用回数、収穫前規制に注意）
- ② ディアナWDGに代えて、劇コテツフロアブルの2,000倍（前日、2回）を散布してもよい。

ネクタリン

第11回 定期防除

散布時期：前回散布から15日以内（8月11日～8月17日頃）

散布薬剤：	水	100ℓ	
	展着剤	20ml	
	オーシャインフロアブル	50ml	（前日、3回）
	ディアナWDG	10g	（前日、2回）

散布日	月	日
散布量		ℓ

対象病害虫：灰星病、黒星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、モモハモグリガ
10a 当り散布量：600ℓ

【注意事項】

- ① ハダニ類の発生が心配される場合は、コロマイト乳剤1,000倍（7日前、1回）または、ダニゲッターフロアブル2,000倍（前日、1回）を加用散布する。（使用回数、収穫前規制に注意）
- ② ディアナWDGに代えて、アルバリン顆粒水溶剤の2,000倍（前日、3回）を散布してもよい。

◇果実腐敗防止対策 降雨が続く場合、系統の違う剤をローテーション散布する。

＊詳細は、もも・ネクタリン特報No.8をご覧ください

裏面には、生育情報と除袋目安が掲載されております。

果肉(特に果頂部)の軟化によるロスが心配されます。収穫適期を逃さないようご注意ください。

また、今後の品種の成熟は前年よりも4日程度早いと予想されます。除袋・反射マルチ・葉摘み等の管理作業は、遅れることのないように進めましょう。

1. H27 収穫始め予想

直前の気象条件により前後します。下表を参考に、果実の状況を見て収穫適期を判断しましょう

＊樹勢衰弱が見られる場合は、熟期が早まりますので、ご注意ください。

品種名	南部地区	平岡地区
なつっこ	8 / 7 ~	8 / 10 ~
山根白桃	8 / 10 ~	8 / 13 ~
川中島白桃	8 / 19 ~	8 / 21 ~
黄金桃	8 / 20 ~	8 / 22 ~

2. 除袋目安・・・平岡地区を基準としています。

＊あくまで目安ですので、園地の生育状況を確認の上、早めに除袋をすすめましょう。

品種	除袋 目安	
なつっこ、山根白桃	収穫 8～10 日前	間に合い次第、除袋。
川中島白桃、黄金桃	収穫 8～10 日前	8/13 頃までに除袋。

3. 新梢管理について

樹冠内部や主枝・亜主枝の背面から発生した旺盛な徒長枝は、成葉4～5枚残して摘芯する。

樹勢が弱い樹は過度に摘芯するとさらに樹勢低下を招くので、できるだけ新梢は切らない。

4. かん水について

晩生種は必要により灌水を行う。

収穫7日前には、灌水を止める。(食味重視のため)

5. 反射マルチの利用

高温による果肉障害(軟化)対策として白色マルチ(タイベック・パールライトS)を活用しましょう!

★大部分の果実は下を向いています。樹下から太陽光線をあて着色向上を!!

白色マルチ「タイベック」「パールライトS」を使用すると、着色向上と成熟の極端な進みを回避できます。

【使用時期】・着色のしやすい品種＝収穫5～7日前 ・着色しにくい品種＝収穫始めの10～14日前